

# 超反動「働こう運動」路線の (第115回) 定中委「機関決定」策動を粉碎せよ



82. 2. 23

No. 975

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)品三三二七二〇七

## 当局と一体となって、人べらしと労働強化を 現場労働者に強制！

来る三月五(六)日の第一一五回定中委で「機関決定」を強行するために作成した「討議試案」II「国鉄問題に関する働券の考え方」(以下、「考え方」と略称する)の中で、働券「本部」革マル反動分子は、①情勢が厳しいこと、②だから今闘うべきではない、③ストライキや実力闘争は、敵の思うツボにはまる。ということをくりかえし、くりかえしおぼえている。

そして、さらに、この反動的な「考え方」II「働こう運動」に対する闘う働券組合員の総反撃を予想し、これに対し、一つ一つ「反論ならざる反論」を行っている。しかし、彼らがこの「働こう運動」を正当化しようとするればするほど、その反動的な本質がますます明らかになってくるのである。

\*\*\*\*\*

### 働こう運動は、経営参加路線そのものだ！

「本部」革マル反動分子は、「考え方」IIの中で経営参加路線についてつぎのようにおぼえている。

- ①われわれのたたかいは、経営参加路線とはまったくちがう。
- ②部外依託という資本・権力の攻撃をはねのけるため一定の「政策(要求)」をつきつけ、たたかう。
- ③かつての政策要求闘争は、「政策を提起し、その前進があれば、攻撃を許容する」というものであった。
- ④今次のたたかいは、政策の貫徹II攻撃の本質をくつがえすたたかいである。

と驚くべきペテンを並べた上で、次のように「たたかひの方法」を示している。

- ①国鉄当局は、外注化によって人べらしをしようとしている。
- ②外注化で人べらしをするならその分われわれが働こうではないか。人をへらす分、働き度を高めようではないか。
- ③答が同じなのに(!!)それでも外注化するといふのなら、国鉄問題を考えていない証拠ではないか。
- ④ある程度(!!)人をへらすことが目的なら、その回答を労働組合の側から出してみよう。

つまり、「国鉄当局が部外依託で人べらしをしようとしている」―「働券は、外注化には、反対するが、人べらしには協力する」―「人をへらす

分、働こう」―「これは、経営参加路線ではない」「政策要求闘争ではない」といつているのだ。

「本部」革マル反動分子よ！なるほど君たちのいつていることは、その通りだ。

確かに「政策要求のたたかひ」などというなまぬるいものではない。君たちのやろうとしていることは、労働組合の原点を完全に圧殺し、支配者・当局の立場と完全に一体化させようという、更に一層反動的な大裏切り路線なのだ。

国鉄当局は、「部外依託と合理化・人べらしで三五万人体制にする」といつており、一方、働券「本部」革マル反動分子は、「二割―三割働き度を高めて人べらしする」三五万人体制とする」といつているのである。

「国鉄三五万人体制」合理化推進で完全に一致して組合が首切りと労働強化を要求するのだ！これが合理化先協力II経営参加路線でなくなんであるか。これが政府・国鉄当局の先兵でなくなんであるか。これこそが真正正銘、国鉄労働者と全労働者階級の敵の正体である。

### 大裏切り方針II 「考え方」を、断固粉碎しよう

「考え方」II「働こう運動」は「たたかひ」でもなければ、「労働組合の政策要求」でもない。文字通り、国鉄当局・支配階級になりかわって働券四万五千組合員に屈服を強制する極めて反動的な「方針」なのだ。国鉄三五万人体制を労働組合の側から率先して実行するための「方針」に他ならないのだ。

全国の闘う働券組合員の皆さん！この「考え方」II「働こう運動」の反動性を見抜き、全支部・全職場から総決起し、粉碎しよう。